

# 鳳来峡

国の天然記念物「馬背岩」から三河川合にいたる宇連川沿いの溪谷を鳳来峡と呼んでいます。

白く平らな河底は板敷川とも言い、火成岩からなる独特の景観から、観光地として親しまれ、湯谷温泉や愛知県民の森などがあります。

## 湯谷の大滝と温泉



湯谷のつり橋(浮石橋)から川上を見ると、板敷川が突然途切れるように大きな滝があります。中央の急流は人工の流れで、明治時代に材木を流す為に岩盤を掘り割ってつくられたものです。

両岸には湯谷温泉の旅館が立ち並び、カルシウム・ナトリウム塩化物泉の湯が楽しめます。源泉は鳳来泉と呼ばれ、現在は地下約1000mからくみあげています。

うまのせいの馬背岩 (博物館ザッ記No.25参照)



## 槇原の流紋岩岩脈

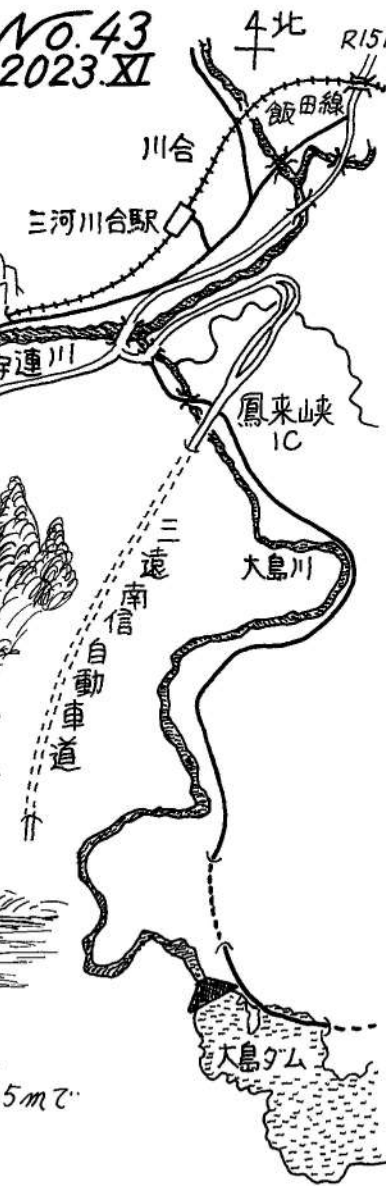
屏風のように立ちわたる大岩壁です。宇連川をさえぎるように大きく蛇行させた岩脈は、対岸まで続いています。流紋岩の硬い岩脈は、かつて滝をつくり、滝つぼの名残りが琵琶淵として、下流側に見ることができます。ここは交通の難所で、望月街道と飯田線は、この岩脈をくりぬいてトンネルを通しました。



# 博物館ザッ記 No.43 2023.XI

## 板敷川

川底が平らで凹凸が少なく、板張りの床のようです。およそ1500万年前の設楽火山の活動で火山灰が大量に堆積してできた凝灰岩が、均質で一様であったので、平らに浸食されてきたと考えられています。



## 望月街道と槇原トンネル

明治時代、舟で運ばれた荷は長篠で陸揚げされて、そこから陸路となりました。明治10年代、宇連川右岸の湯谷から川合までは道らしい道もなく、物資の運搬は困難でした。長篠で日用雑貨品の荷を大量に扱っていた「久保屋」の初代望月喜平治は、既存の遠山道と伊那下街道の整備とさらに湯谷～川合までを一本道とする決心をしました。しかし、この宇連川右岸側は急峻な山が川辺までせり出し、岩盤がむき出しの断崖絶壁ばかりの地形です。資金援助と得られぬ中で、私財を投じて9年の歳月をかけて明治19年2月に完成させました。その最大の難工事が槇原のトンネルで、当事貴重だったダイナマイトが使われました。

軽自動車やバイクが通れる道中ですが、今でも飯田線と並走する街道をたどることができます。いたる所で難工事の痕跡が確認できます。

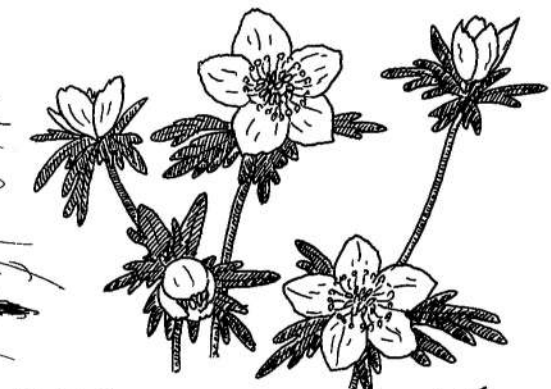


板敷川の平らな河床を断層が横断してできた滝です。川幅いっぱい約80mのみごとな姿ですが、落差約3.5mで、国土地理院の滝の条件(高さ5m)に少し足りません。

## 宇連川のポットホール



宇連川では、単独のものから、つながったものなど、様々なポットホールがみられます。



## 石雲寺のセツファンソウ

毎年、節分の頃に白い花を咲かせます。寺の梅林がセツファンソウで彩られます。

